

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト活動報告 令和6年11月5日～令和7年3月7日

活動名	天霧山・二反地川・瀬戸内海・弘田川・さぬき富士・五岳山ビューポイント創出活動	
活動団体名	舟岡山未来プロジェクト活動組織(環境保全隊、子育て隊、舟岡山・弘田川ラグーン研究会) 共同 ボート隊・釣り隊・青年隊・海外隊 (草の根活動一地域資産の発掘へ。)	
活動目的	・54年前の舟岡山頂上(香川県仲多度郡多度津町)からの360度パノラマを取り戻すこと。(経過点) ・生物多様性に果たす里山の二次的な自然環境の役割を考え、里山の手入れを継承するシステムを考え、里地の方々のシンボル舟岡山の復元、こどもたちの森林体験の場(学びの場)の創出。(短期目標)	
活動内容	・舟岡山の地主個人の下草刈&活動組織+応援者による集団活動は月1～2回の割で新作業地を追加して継続中。今年度の新区域の活動の場の真竹の藪は皆伐処理しました。真竹の利用として、あらたに福祉介護施設の職員さんが正月飾りの竹を取りに来てくださったり、離れた地の、自主防災会の炊き出し防災訓練への竹飯はんごう指導の要請、どんと焼き復活への燃え草提供に呼応しています。 ・郷土史研究会=舟岡山・弘田川ラグーン研究会の成果を、この地の森里川海のつながりを古代の歴史と関連付けて、道案内看板を設置しました。(公益財団法人 かがわ水と緑の財団 緑の募金事業) ・県道に越境していた大経樹、曲がり木の伐倒処理を委託により、安全教育を兼ねて完了しました。 ・(テーマ:おもいやりのいす、景観・技能の伝承):高校生いすデザインコンテストにて香川県立多度津高等学校作品が日本一に輝きました。ひと夏の青春の経験の跡は、私達への羅針盤かも知れません。 ・報道四国4社共同企画、地域を創る・四国を拓くシリーズに舟岡山未来プロジェクトが紹介されました。(小さなことの積み重ねにより、子どもや若い人が将来、住みたい地のひとつになれば良い。)	
活動写真		
写真説明	契 つなげる・支える・わたしたちの森里川海への挑戦	地域歴史・案内看板の設置
活動効果	・前進できない竹藪・棕櫚区域の皆伐を実施し、次の活動エリアの竹の利活用の策を考え、実践できる作業空間が誕生しました。自然体験活動の機会を増やしてほしい要望が出ています。 ・四国新聞記事により、場を知っていただいたためか、初日の出を見に登頂したり、香川県以外から来られる方々を見受けています。案内予約相談もあります。関係人口の増加になれば嬉しく思います。 ・田舎フィールド山・川・田((弥生時代の不定形の田)・古民家の相関から自然の恵みに自信を持つ地元の方々が表れ始めました。活動に伴う資金・経済を考えなければという考えが芽生え始めています。	
今後の展望	①新区域となる竹藪の枯れ竹の除去・不要な竹の間伐を実施し、筍再生・竹林の音の響きを生み出す。 ②田舎フィールドを利用したのキャンプ・アウトドアの要望に場所を提供します。 ③舟岡山の腐葉土を利用しながら、地力の回復・自然農・ひまわり畑耕作(花迷路予定)を検討します。 ①②③活動をしながら、地域おこし、手直しを補い合える近郊パートナーを探したいと思います。 ④(一社)香川県空き家対策連合会設立準備委員会の課題解決アプローチによる地域環境課題解決策も模索します。	